

## ツボミオオバコの二形花 (稲村 毅)

Tsuayoshi INAMURA: Dimorphic Flower of *Plantago virginica* L.

ツボミオオバコ (*Plantago virginica* L.) は北米原産の帰化植物で、花冠裂片が開かず、雄ずいが短く花冠内にとどまることにより、いつまでもつぼみの状態であるためにこの名がある (久内, 本誌 17: 673-674, 1942; 図 1-1). しかし、春最初にのびてくる花茎には、他のオオバコ類と同じような、花冠裂片が平開し、雄ずいが著しく長いタイプの花をつける (図 1-2). この花はつぼみ型の花より結実が少なく、花が終わると花茎自体が萎えて枯れてしまうことも多い. 後からのびてくる花茎にはつぼみ型の花がつき、こちらの方がよく結実する. このことからつぼみ型の花は閉鎖花と考えたが、二つの花型を区別した図や記述は、

わが国の文献では見当たらない. Gray's Manual of Botany (8th ed. Fernald 1950) によると、閉鎖花と開放花の区別が検索表に用いられており、前者を fertile, 後者を sterile としている. 原産地では周知のことではあるが、わが国ではよく認識されていないようなので、記録しておく. 本種の野生地は東京都府中市中河原の多摩川と、神奈川県山北町の皆瀬川を知っているが、山北町の産地は 1978 年以来、少しも拡がっていない. 本報を書くにあたり、ご指導いただいた国立科学博物館植物研究部金井弘夫博士に厚く御礼申し上げます.

(東京都町田市高ヶ坂 1428-1)



図 1. ツボミオオバコ (*Plantago virginica* L.). 1: つぼみ型の花穂, 2: 平開型の花穂.